

# ねりまの文化財

## 平成15年度 新たに指定・登録した文化財を紹介します

練馬区文化財保護条例に基づき、平成16年3月10日、新たに練馬区の文化財として「井頭のヤナギ」を指定し、「小林家住宅」など7件を登録文化財としました。

条例を施行した昭和61年度から、これまでに登録した文化財は150件となりました。さらに登録した文化財のなかでも、学術的価値が特に高く、区の文化財として重要なものを毎年指定しており、今回で37件となりました。

指定、登録文化財は学識経験者で構成する練馬区文化財保護審議会の意見に基づき、所有者の同意を得て教育委員会で決定しています。



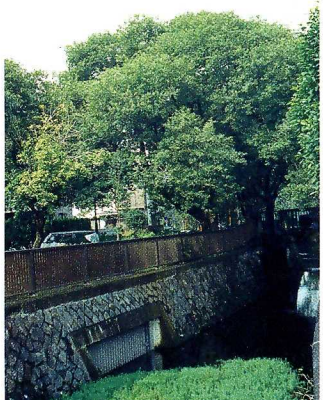
審議の様子(古文書調査)

登録文化財は文化財登録台帳に記載され、条例に基づく保護や活用の対象となり、文化財説明板の設置や修理(指定文化財に限る)などの際に、区が補助をできるようになります。

練馬区文化財保護審議会委員(第九期)	
浅井潤子	元国立史料館教授 近世史
品田 穰	元文化庁調査官 保全生態学
柴辻俊六	早稲田大学講師 中世史
菅野久子	成城大学名誉教授 民俗学
副島弘道	大正大学教授 美術史
松下正己	元区史編纂委員 地方史
森 公章	東洋大学教授 古代史
山崎 弘	工学院大学名誉教授 建築史

文化財をご覧になるときは、所有者や周囲の方々の迷惑とならないようご配慮ください。また、公開されていないものもありますので、ご注意ください。

練馬区教育委員会  
生涯学習課  
(文化財係)  
☎ 3993-1111  
〒 176-8501  
練馬区豊玉北6-12-1



### 井頭のヤナギ(二株) 指定天然記念物

●所在地 区立大泉井頭公園  
楕円形の成葉がつくマルバヤナギで、白子川の源流とされる井頭池の川岸に生育したものです。井頭橋の際にあるものは高さ6.2m、上流のものは高さ8.8mを計ります。

マルバヤナギは川岸や池沼など低地の湿地に多く生育します。河川改修などにより湿地だった面影はありませんが、この二株は、もとは豊富な湧き水があった井頭池の水辺に生育したもので、水辺植物として特徴的であるばかりでなく、区内では大きなヤナギです。

### 木下家文書(一括・53点) 登録有形文化財

●所在地 郷土資料室  
江戸時代に川越街道下練馬宿(現北町一・二丁目)の本陣を経営し、名主を勤めた木下家の文書類です。寛永19年(一六四二)から明治期までのもので、金乗院(錦二丁目)と木下家に関わるものや土地証文などが多く伝わっています。寛延3年(一七五〇)の文書には「御殿」の地名が記されており、当時の地名が分かります。



寛延3年の替地証文(かえちしょうもん)

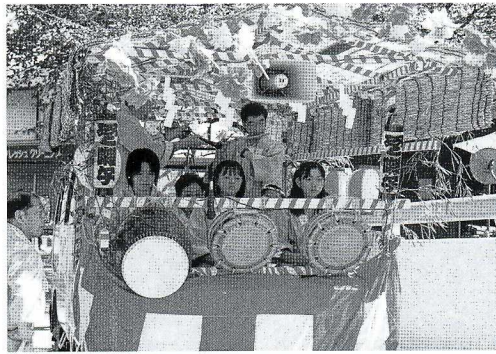
江戸期の下練馬村の様相を知ることができ、重要な資料です。  
※常時展示していません。

### 貫井囃子

登録無形民俗文化財

#### ●保持団体 貫井囃子保存会

貫井、高松地域に伝わる田渕流、中間(ちゅうま)の祭囃子。明治期に鷲宮囃子から習い成立したといわれています。現在は貫井町会と地元の小・中学生などが保存会に参加し、地域の祭りなどで演じています。



貫井町祭礼にて(平成15年9月)

### 春日町囃子

登録無形民俗文化財

#### ●保持団体 春日町囃子連

春日町地域に伝わる神田流、大間(おま)の祭囃子。戦前に春日神社(春日町三丁目)の囃子として演じられていま

したが、戦争で中断、昭和29年(一九五四)に春日町の方々が田柄囃子から習い再興した囃子です。現在は春日神社の祭礼や地域の祭りなどで演じています。

### 富士見台囃子

登録無形民俗文化財

#### ●保持団体 富士見台囃子連中

富士見台地域に伝わる神田流、大間の祭囃子。明治期に石神井川南岸で成立した囃子で、昭和39年(一九六四)の町名変更後、富士見台囃子と称するようになりました。現在は谷原地区祭などで演じています。

### 谷原囃子

登録無形民俗文化財

#### ●保持団体 谷原囃子保存会

谷原、高野台地域に伝わる井草囃子の中通り囃子系、中間の祭囃子。明治期に井草囃子から習い成立したと伝えられています。締太鼓の内側には明治31年(一八九八)、谷原川北囃子連中と記されています。現在は氷川神社(高野台一丁目)の祭礼などで演じています。

## 新刊紹介

### ★『練馬の寺院』

おまたせしました！品切れになって久しくなっていた郷土史シリーズ3・4の合冊『練馬の寺院』の三訂版を刊行しました。今回の改訂では、写真をすべて刷新しました。区内45寺院の歴史や文化財を紹介、解説しています。

A5判・70頁 二八〇円

### ★『練馬の集団学童疎開資料集(1)』

集団学童疎開が始まった昭和19年に、開進第三国民学校(現、開進第三小学校)の児童が群馬県磯部町に疎開した時の書簡を紹介しています。戦時下の緊迫した状況の中、親元を離れたこどもの生活や心情を知ることができます。

疎開先で撮影された写真なども巻頭に掲載しています。

A4判・112頁 五〇〇円

### ★『甕の中世城郭』

#### 石神井城跡発掘調査の記録

石神井公園内に残る東京都旧跡、石神井城跡の学術発掘調査の記録です。カラー図版などで、分かりやすく発掘成果を紹介しています。

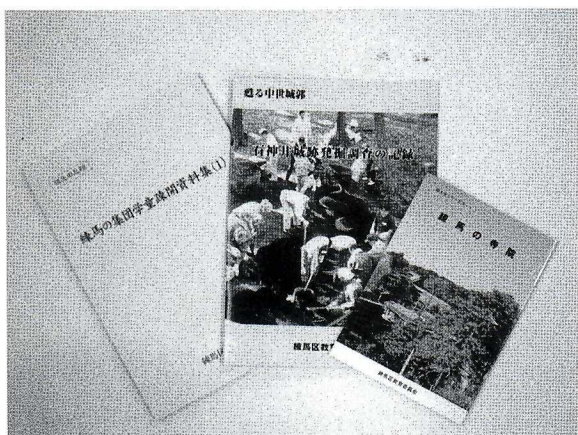
石神井城は、中世に活躍した豊島氏の城です。文明9年(一四七七)に太田道灌に攻められ落城しました。

発掘調査は石神井城跡の構造解明を目的に、区民ボランティアが参加して、平成10年から六年間、区教育委員会が行いました。主郭と推定されている範囲の堀の調査を手始めに、土塁や土塁内側の内郭範囲の調査を行いました。成果として、堀の規模や形が分かるとともに、土塁から常滑の甕(とこなめのかめ)、小刀が出土したのをはじめ、内郭からは、建物跡の柱穴や畝状遺構、地下式坑が見つかり、14世紀以降の陶磁器などが出土しました。

A4判・本文16頁 五〇〇円

※販売・閲覧

区民情報ひろばⅡ練馬区役所2階  
郷土資料室Ⅱ石神井図書館地階  
(石神井台一丁目一六番三二号)  
※区立の図書館でも閲覧できます。



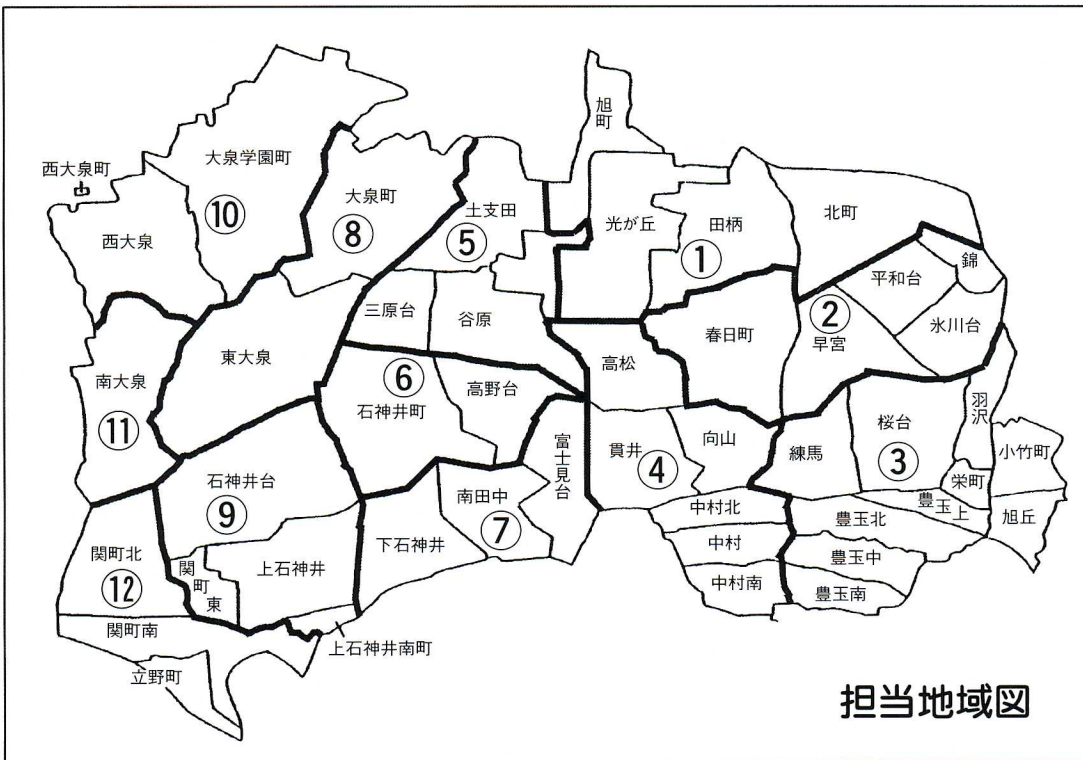
文化財を次代に伝える最前線役  
**“文化財保護推進員”の活動にご協力を!**

「文化財保護推進員」という方にお逢いになったことがありますか？

練馬区文化財保護推進員制度は、昭和63年に練馬区文化財保護条例に基づいて設置されました。推進員の任期は二年間で、平成16年4月1日付けで第九期目の12名を委嘱しています。今期の推進員は、12名のうち5名が新たに推進員として就任するという、今までにない規模で交代が行われ、担当地域の見直しも行いました。

推進員の方々は、12に分けられた区内の各地域を担当して、巡回や調査を行いながら、区民へのお声かけなど、文化財保護のための地道な活動を続けています。また、区が実施する様々な文化財関連事業にもご協力いただき、文化財保護の重要性を広く区民に広める役割も担っています。

私たちの身近な文化財を守り、次代に伝えていくうえで、きわめて重要な役割を担っている推進員活動にどうぞご理解とご協力をお願い致します。



担当地域図

① 田澤 健男  (新任)	② 岡本 龍蔵  (新任)	③ 鈴木 曹元  (再任)	④ 佐藤 光治  (新任)	⑤ 鷺田 芳夫  (再任)	⑥ 須賀 頼子  (新任)
⑦ 蜷川 葉子  (再任)	⑧ 徳川 達子  (再任)	⑨ 長坂 淳子  (再任)	⑩ 奥野 雅司  (再任)	⑪ 荒井 道子  (再任)	⑫ 鈴木 義範  (新任)

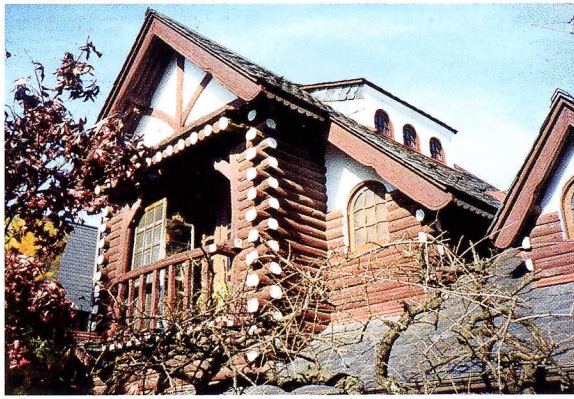
小林家住宅 (一棟)

登録有形文化財

所在地 桜台五丁目一番

所有者 小林良一さん

昭和27年(一九五二)頃に建てられた丸太小屋風の瀟洒な洋風住宅です。現在の玄関と北側の和風住宅は増築したもので、一階のポーチと居間、二階の寝室と屋根裏部屋が当初の建物です。建物は木造二階建て、屋根は石板をうるこ状に葺いています。外観は丸太を半割りにしたものを見せ外壁化粧としています。屋根は急傾斜と緩傾斜を組み合わせた、妻側はハーフティンバーのキングトラス風化粧とし、山小屋風な建物の特



徴づけています。各部屋の内部も贅を尽くした田舎風で山小屋風な造作となっています。

芸能プロダクションを主宰していた人が、音楽スタジオに付属する迎賓館として建築したと伝えられています。そのため、池を中心とした庭も整備され、隣地には同時期に建てられたと考えられる建築様式が似た建物も現存しています。

関東大震災や戦争を契機に、郊外住宅地として都市化したこの地域の様相が窺える建物です。また、意匠や建築技術は手間がかかっており、今後再現することが困難な近代建築物です。

※非公開です。路上からご覧ください。



南側立面図

ハーフティンバー 木造の柱や梁などを組み合わせた間を壁材などで充填する建築構造

キングトラス 補強材の組み方、ここでは、妻外壁に見える筋交いの組み方です

石神井西尋常小学校のリードオルガン (一台)

登録有形文化財

所在地 郷土資料室

石神井西小学校で使用されていた足踏みオルガンです。幅129cm、奥行43cm、高さ112cmで、鍵盤数は36鍵、11ストップです。彫刻などの装飾が少ない簡素なものです。ストップボタン二つは残しながら欠損しています。

ストップボードには「YAMAHA ORGAN」と数々の受賞メダリオンが印刷されています。また、オルガン内部には製造番号「238029」が刻印されてい



ます。これらから、日本楽器製造が昭和初期に製造したものであることが分かります。

我が国では明治19年(一八八六)に始まった尋常および高等小学校における唱歌教育のため、リードオルガンが学校に配備されるようになりました。区内の学校では明治30年代になって唱歌が正式課題となりました。このオルガンは石神井西小学校の前身である石神井西尋常小学校に昭和初期に配備されたものです。昭和40年代には足踏み式から電動式のポンプがついたオルガンに替わっていきました。国産オルガン初期の普及型オルガンとして貴重であるとともに、唱歌や音楽教育の様相を伝える資料です。

※常時展示していません。

